

## ARC・PEACE 2014 使命記述書

(2013年4月28日、ウィーン総会における採択)

急速かつダイナミックに変容する世界に向けて

地球規模で進行する、数々の批判すべき変化は、国家レベルあるいは地域レベルでの社会開発やコミュニティ計画に影響を及ぼしている。

気候変動は、我々人類に危急な対応・行動を求めている。近年のこうした変動を防ぐ試みは不十分であり、干ばつや鉄砲水、海岸線沿いの都市や重要なインフラを含む広大な地域への浸水をまねく海水面の上昇などの状況を引き起こし、その他の大惨事に関連する気象変動も避けられない状況である。都市や町、地域、人々の生活—とりわけ恵まれない貧しい人々は、直接的な被害を受けることになる。「気象変動に伴う難民」は、近未来において世界の人口の再構成を迫る要因となり得る。特に低所得階層の人口は、もっとも危険にさらされることになる。その他のタイプの環境破壊とは、過剰な消費や、多様な生態系を危険にさらす消費サイクルの破壊によるものであり、世界の海に汚染物質をもたらす、廃棄物を山積させるのである。

我々は、温室効果ガスの放出を伴い環境破壊をまねく化石燃料の使用を継続するか、あるいは数十年前から試用が開始されている再生可能エネルギーへ転換するか、その選択の岐路にある。一方、燃料価格は依然として高額であり、そして、所得階層の差違によって、特に南国において深刻な問題が生じている。市場経済の怠慢と欲に満ちた取引によって、合理的な選択や阻止され、グローバルレベルで貧富の格差を生み出す状況が生み出されており、全ての国において、市民参加・自主自治・民主主義の維持が脅威にさらされつつある。

「テロへの戦い」は、人権・民主主義の原理を押し退け、国際規約の破棄により、無差別懲役・拷問や新兵器の開発が推し進められるようになった。さらには紛争の描写や主要メディアのこうした事態への報道競争は、公共が提供する真実への不信を生み出している。市民社会が非暴力による紛争解決や公正な民主主義の履行のための努力を重ねているにも関わらず、こうした潮流は、世界中の政治的指導者あるいは政府によって、無関心や暴力的な抑制が増幅される効果をもたらしている。環境的持続可能性に至る効果は、社会的公正・人権や民主主義と連関されねばならないのである。

建築家やデザイナー、コミュニティプランナーなどの個人にとって、こうした世界的な変化は、日常業務から距離感のある不適切な出来事として捉えられよう。しかし多くの国において、あるいは多くの専門家の置かれた状況において、こうした外的要因は、彼らが市民生活への参加と彼らの職能に対して、即座に影響を及ぼすものでもある。ARC・PEACEは、こうした要因に対する創造的分析に寄与し、それと同時にあらゆるタイプの結果として生ずる社会的公正を唱導し、平和・持続可能性・社会的正義のために闘う我々のメンバーとの連携を保つ活動を展開するものである。

### 抑圧下での専門家集団としての役割

建築家あるいは都市計画家としての専門職能とは、長い歴史の中で出現し変化してきたものである。ほとんどの歴史を通じて、建築物やそれに類するものは、それぞれの地域の価値観や材料の状態に基づく職人の技と伝統によって分かちあってきたものである。時間の経過とともに、デザイン・建設・コミュニティ計画は、特に20世紀初頭の近代の出現と産業主義と関連することによって、急速な変化を遂げるようになった。そ

れにより、専門家の仕事は、社会的な階級構造・経済状態、そして欧米の優位性へ影響を及ぼしながら、より堅固で階層的なものとなり、専門分野における知識の分断が生じた。今日、トップダウンとボトムアップとで進められる計画の間で同様の葛藤が見受けられ、中国、インド、ブラジルおよびその他の新興国において、環境に優しいデザインと同時に、多様な建材を用いる建築市場が混在している。法的規制をもたない都市の地価や不動産価格は、恵まれない低所得階層の人々を、手頃な価格の適切な住宅から遠ざけているのである。

グローバル化によって、こうした葛藤は、もはや単一国家内に起こることではなく、国際的な競争によって生じる傾向にある。国際的コンサルティング業界において、すべての国々を国際市場、すなわち、地域の状況・必要性および価値を考慮しない消費中心主義社会に統合することが示唆されている。このような傾向は、専門家同士での競争の激化、地域に根ざした価値観の軽視、全てのレベル・全ての国における労働者の搾取を導くことになる。

建築家やデザイナー、コミュニティプランナーなどの個人にとって、こうした就労状況に対する変化は、その技量・独立性・知識・地域の状況や求めに応じる能力に対して、新たな前提条件をつきつけるものである。個人あるいは大きなビジネスプロジェクトに参画する者にとって、自身の仕事への整合性を断言し、仕事の状況をコントロールすることは、困難ではあるが不可能ではない。ARC・PEACEでは、こうした新たに出現した状況や我々の職能の帰結の方向性を分析し、より良いシステムをもって、こうした問題の転換に寄与する専門家を繋げる役割を果たす。

## ARC・PEACE の最終目標

ARC・PEACE の役割とは、建築やデザインに関わる専門家の時代に応じた役割の変化を解釈し、こうした局面に直面した専門家を支援する戦略を開発することにある。それは、以下の点も含む

- ・ 専門家の責任、倫理感、技量、立場の透明性に対して、絶え間ない対話を通じて、他の領域の専門家集団とお互いに影響を及ぼし合うこと。
- ・ 日常の業務において、ARC・PEACE の目標の実現に努力を行っている個人および集団と関わり合いを支援すること。
- ・ 特に、建築教育とは一線を画す、社会的・環境的視点を備えた教育を含めようとする学際的アプローチに焦点を当て、我々の全ての領域での職能に関わる教育の発展に影響を及ぼし参加すること。
- ・ 持続可能な社会の構築に向けた、建築・デザイン・コミュニティ計画の理論および実践の両面に関する包括的な公的議論を積極的に推進し奨励すること。
- ・ ARC・PEACE の価値および公的な立場を発信し議論するため、我々独自のメディアを発展させること。
- ・ 実践の適切な成功例や、我々に方向性やインスピレーションを与えてくれる計画例などに関する情報を共有すること。
- ・ デザインや計画のプロセスにおける、多様性・地域の知恵・伝統や文化を認識すること。
- ・ 建築や計画時に、既存のコミュニティ構造を利用しながら、性別・年齢・信条に関係なく、相互の関係性や当事者意識を生み出すために、3Rの原則、すなわち、再利用（Reuse）・廃棄物の減量（Reduce）・リサイクル（Recycle）を促進すること。

（翻訳：水村容子）